

税関前歩道橋設計競技（コンペ）に係る審査経過、審査結果及び講評

I. 審査経過

1. 第1回審査委員会 平成30年7月20日（非公開）

まず、審査委員会設置要綱に基づき、委員長と副委員長を選出した。

「設計競技募集要項（案）」について事務局から説明を受け、設計競技の実施方法について2段階（1次審査、2次審査）で選考することを確認し、審査方法、審査項目・審査基準などについて審議を行った。

さらに、審査実施の詳細については、委員と事務局との協議・調整を行い、2次審査について公開のプレゼンテーションを実施することなどを追加決定した。その後、募集要項は事務局を通じて公表され、作品の募集が開始された。

なお、委員会の構成は以下の通りである。

委員長	安田 丑作	（神戸大学名誉教授）
副委員長	嘉名 光市	（大阪市立大学大学院工学研究科教授）
	久保田 善明	（富山大学都市デザイン学部教授）
	高橋 良和	（京都大学大学院工学研究科教授）
	藤本 英子	（京都市立芸術大学美術学部教授）
	三上 晴久	（神戸芸術工科大学芸術工学部教授）
	油井 洋明	（神戸市建設局長）

2. 第2回審査委員会（1次提案審査）平成30年10月29日（非公開）

事務局から募集経過の報告として、10者から応募予定登録があり、最終的には9者からの1次提案書を受理した旨の説明があった。その上で、事務局から申込者の応募資格の確認結果の説明がなされ、9者すべてが要件を満たしていたことが報告された。

審査は、各委員による提案書の内容の審査項目・審査基準に基づく事前評価（仮採点）を踏まえて、それぞれの提案に関する委員相互の意見交換が行われた。その後、各委員による最終評価（本採点）が行われ、総合評価点（全体平均点）の高い上位5者を1次審査通過者として選出し、募集要項に基づいて2次提案書の提出を求めることとした。

3. 第3回審査委員会(2次提案審査)平成30年12月15日(午前は公開、午後は非公開)

午前には、1次提案通過者5者による2次提案書の内容についてのプレゼンテーションが公開で行われた(50名の一般参加者が傍聴)。

午後の審査にあたっては、まず、2次提案書とプレゼンテーションの内容を踏まえた審査項目・審査基準に基づく評価(仮採点)が行われた。つづいて、各委員の評価の視点とともに、それぞれの提案内容を比較しつつ議論を重ねた後、各委員による最終評価(本採点)が行われた。

その結果、審査委員会での合意に基づき、総合評価点(全体平均点)が第1順位の提案を「最優秀」に、第2順位の提案を「次点」とすることを決定した。他の3提案については、順位をつけず「入選」とすることとした。

II. 審査結果

上記審査の結果、選定された応募者は以下の通りである。

○最優秀

受付番号1(グループA)

代表者: 株式会社エイト日本技術開発

構成員: 株式会社イー・エー・ユー

○次点

受付番号10(グループE)

代表者: パシフィックコンサルタンツ株式会社

構成員: 株式会社蘆田暢人建築設計事務所

○入選(受付番号順)

受付番号4(グループB)

代表者: 株式会社オリエンタルコンサルタンツ

受付番号5(グループC)

代表者: 扇コンサルタンツ株式会社

構成員: 株式会社ティーハウス建築設計事務所
株式会社 tmsd

受付番号6(グループD)

代表者: 中央復建コンサルタンツ株式会社

構成員: 株式会社 E-DESIGN
株式会社 LEM 空間工房

Ⅲ. 講評

1. 総評

本設計競技（コンペ）では、税関前交差点における「税関前歩道橋」の架け替えを前提に、三宮周辺地区と新港突堤西地区・みなとのもり公園をつなぐ「渡りたくなる歩道橋」の提案を求めるものであり、9者からの提案があった。

限られたスケジュールのなか、本コンペの趣旨をよく理解し、真摯に熱意を持って参加し、貴重な提案をいただいた全ての提案者の方々に対し、審査委員会として心からの敬意を表したい。

提案書はいずれも、国道2号による港と街との分断感を緩和し、当該交差点を新たな空間として劇的に創り変え、さらには、新港突堤西地区と三宮周辺地区をつなぐ都心の南北軸強化への期待感を持つことができるものであった。

第1次審査では、主に設置場所の環境特性への理解度、橋梁デザインの平面線形（動線パターン）と上部構造などの観点から議論され、各委員による総合評価（全体平均点）の上位5者を第2次提案募集の対象者に選出した。

この第1次審査での評価では、全体として提案内容の完成度や実現可能性よりもアイデアの独創性や発展性が重視された。

第2次提案対象に選定された最終応募5作品については、審査に先立って公開プレゼンテーションによる内容説明がなされた。いずれも、豊富な実績と高度な技術力に裏打ちされ、創造的で魅力的な提案内容であった。

その後の審査では、安全・安心で快適な歩行者の移動空間の実現（機能）、周辺環境との調和（景観）、造形的な美しさ（デザイン）、橋梁構造の安全性・合理性（技術）、施工と維持管理の適切さ（マネジメント）などの観点から5作品それぞれの提案内容を慎重に検証した。さらに、提案内容全体としての構想性、独創性、実現性の視点からも検討を加えた。

評価（採点）の結果、個々の委員の順位評価は複数の提案に分かれたが、審査委員会として最終的に、総合評価（全体平均点）の第1順位を「最優秀」、第2順位を「次点」、その他3提案は順位をつけず「入選」に選定することとした。

2. 選評

最優秀となった受付番号1（グループA）の提案は、特に次のような点が高く評価された。

○東遊園地の一部を使うことで、緩やかなカーブの平面線形を生むとともに、主塔と吊り構造のケーブルが織りなすやわらかな曲線によってシンボリックな造形美が表現されている。

○桁厚が500mmで、5者の提案書のなかで最も薄く、軽快なデザインで、周辺環境と調和している。

○交差点北西側からのアプローチの勾配は4%、幅員は5mであり、5者の提案書のなかで最も緩やかで広幅員のスロープであり、安全・安心で快適な歩行者の移動空間を実現することが期待出来る。

提案内容全体として、機能、景観、デザインのバランスが取れており、また、技術、マネジメントにおいても優れており、総合的な評価として最優秀にふさわしいと判断された。

次点となった受付番号10（グループE）の提案は、詳細な構造解析がなされていることや、施工手順が十分に検討されていることなど、橋梁構造の安全性・合理性（技術）と、施工と維持管理の適切さ（マネジメント）が評価された。

その一方で、みなとのもり公園の利用を大きく変える恐れのある線形になっていることや、トラス部材の見付けが厚く、歩道橋利用者に対し阪神高速の高架橋とあわせて過度な存在感を与えるなど、機能・景観・デザインの観点で最優秀作品には及ばなかった。

以下、入選となった作品について、受付番号順に記載する。

受付番号4（グループB）の提案は、交差点上部に円環（リング）状に架橋する軽快で透明感のある都会的なデザインで、丁寧な構造解析もなされていた。ただ、東遊園地からみなとのもり公園へと至る動線が、既存歩道橋以上に長くなることや、阪神高速道路の桁に近接することなど、この場所での橋梁形式として機能・景観の観点での説得力に欠けた。

受付番号5（グループC）の提案は、三宮交差点からもはっきりと見えるシングル・アーチが、シンプルで力強い印象を与えるデザインであった。しかし、アーチと桁との取り合いが不明瞭で、構造モデルの仮定や概算工事費の算定に精度を欠くなど橋梁構造の安全性・合理性、施工計画の適切さについてなど、検討が不十分であった。

受付番号6（グループD）の提案は、東遊園地からみなとのもり公園に向かっておおらかな円弧を描く線形の造形的な美しさが表現されており、歩道橋を園路に見立てるコンセプトについては高く評価された。一方で、たわみ制限を満たすため、高強度の鋼板が極厚で使用されており、平面的なカーブの影響も考慮すると、さらなる板厚増や、断面の変更が必要となる可能性があるなど、橋梁構造の合理性と実現性についての懸念があった。

3. 最優秀作品提案者及び神戸市に対する期待

最優秀作品提案者においては、今回提案された作品の造形的な美しさなど、その特長について多くの市民の理解を得るため、吊構造を選定した根拠など設計思想について、さらに丁寧な説明が求められる。

提案者自らが実施する予備設計にあたっては、提案内容の精度や熟度を高めることはもちろんのこと、引き続きデザイン監理を担う詳細設計・施工の段階においても、提案された「市民参加など愛着を生むプロセスデザイン」を実現していくため、神戸市と協議・調整しつつ、一層の創意・工夫に努めていただきたい。

一方、神戸市においては、当該交差点北西部に位置する東遊園地（南エリア）に、「渡りたくなる歩道橋」の導入部となる広幅員で緩勾配のスロープが設置されることから、今後の東遊園地再整備を進めるなかで、今回の歩道橋整備と一体となった魅力ある公共空間形成の取り組みを望みたい。

今回の設計競技（コンペ）は、平成26年の品確法改正以降の公共調達をめぐる環境が変化するなか、土木構造物を対象としたデザインと構造との統合的な計画・設計を求める神戸市初の試みであった。これからの土木構造物の建設・整備においても、今回得られた貴重な経験を活かして、設計競技（コンペ）方式の採用について積極的な展開が図られることを期待したい。

平成30年12月28日

税関前歩道橋 設計競技（コンペ）審査委員会
委員長 安田 丑作